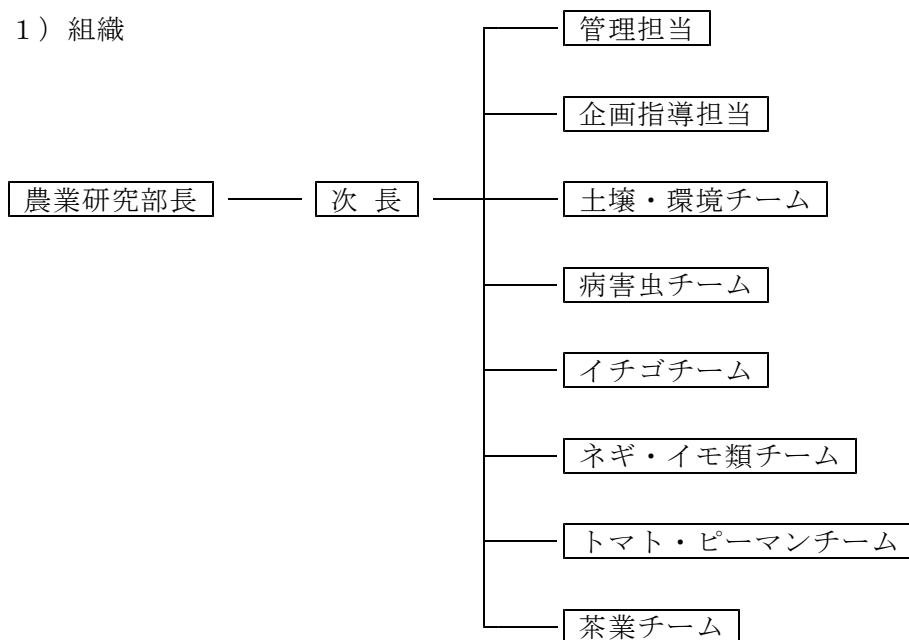


Ⅱ－１ 農業研究部

1. 組織および職員配置状況

1) 組織



2) 職員配置状況

組織	職 種	職 員		技師	労務技師	業務技師	事務補佐	計	備 考
		事務	技術						
部	長		1					1	
次	長	1						1	
管	理 担 当	5					1	6	
企	画 指 導 担 当		7					7	広域普及指導員 4
土	壌・環 境 チーム		6		1			7	
病	害 虫 チーム		9					9	
イ	チ ゴ チーム		6	1	1			8	
ネ	ギ・イモ類チーム		4					4	
ト	マ ト・ピーマンチーム		5		1	1		7	
茶	業 チーム		2	1				3	
計		6	40	2	3	1	1	53	

2. 業務

- ①農産物の安全安心に関する研究
- ②環境に優しい農業生産技術
- ③病害虫管理技術及び土壌管理技術
- ④植物検疫、病害虫発生予察情報、気象情報等の情報発信
- ⑤イチゴ・ネギ類・いも類・トマト・ピーマン・茶等の品種選定・育種
- ⑥イチゴ・ネギ類・いも類・トマト・ピーマン・茶等の高品質、省力・低コスト栽培技術
- ⑦バイオテクノロジー手法を用いた品種判別技術
- ⑧農産物の安全安心・病害虫管理・各種野菜生産等に関する既開発技術の現地移転ならびに指導者・生産者に対する指導

3. 試験研究課題

試験研究課題名 I 大課題 1 中課題 1) 小課題 (1) 試験項目	担当	連携機関	研究期間	予算区分
I 産地間競争に打ち勝ち、もうかる農林水産業を実現するための研究開発				
①ブランド化のための技術開発				
1 県間連携によるイチゴ新品種の育成				
1) 県間連携による品種育成と栽培技術の確立				
(1) 母本特性評価	イチゴチーム	なし	H25～27	県単
(2) 組合せ能力検定	〃	〃	〃	〃
(3) 選抜	〃	山口県、鳥取県、島根県	〃	〃
2) 育種期間短縮のための交配、選抜方法の確立				
(1) 育種期間短縮のための交配方法の確立	イチゴチーム	なし	H25～27	県単
(2) 育種期間短縮のための選抜、評価方法の確立	〃	〃	〃	〃
(3) 短縮技術を用いた交配、選抜による有望系統の育成				
ア) 実生系統選抜、二次系統選抜、三次系統選抜	イチゴチーム	なし	H25～27	県単
イ) 四次選抜	〃	山口県、九州農研セ他	〃	〃
ウ) 育成系統「大分5号」の栽培技術	〃	イチゴ品種育成支援プロ	〃	〃
エ) 地域適応性試験	〃	イチゴ品種育成支援プロ、各振興局	〃	〃
2 県育成品種（大麦、カンキツ、イチゴ）のDNA鑑定法の開発				
1) オオムギの品種判別	イチゴチーム	水田G	H24～25	県単
2) カンキツの品種判別	〃	果樹G、農研機構果樹研究所	〃	〃
②マーケット起点のものづくりを支える技術開発				
3 栽培情報モニタリングによるイチゴ最適管理技術				
1) 栽培環境が単収に及ぼす影響				
(1) CO2施用および日中強制換気が生育及び収量に及ぼす影響	イチゴチーム	九州大学、産科技セ	H25～27	県単
(2) CO2施用と液肥濃度が生育及び収量に及ぼす影響	〃	〃	〃	〃
(3) 排液率および灌水方法が生育および収量に及ぼす影響	〃	〃	〃	〃

試験研究課題名 I 大課題 1 中課題 1) 小課題 (1) 試験項目	担当	連携機関	研究期間	予算区分
(4) 元肥による排液ECの違いが生育、収量に及ぼす影響	〃	〃	〃	〃
2) 生産現場における単収決定要因の分析(現地調査)	〃	〃	〃	〃
3) ITを活用した栽培情報モニタリングシステムの開発支援	〃	〃	〃	〃
4 安全生産技術に対する研究				
1) 普通作物の病害虫防除対策				
(1) 水稲病害虫防除の効率化、体系化				
ア 水稲・大豆害虫の個別防除効果試験	病害虫チーム		H25～27	委託
2) 野菜類の病害虫防除対策				
(1) 野菜類病害に対する薬剤選定(トマト・ピーマン・ネギ・ニラ)	病害虫チーム	中部振興局	長期	県単一部委託
(2) 野菜類害虫に対する薬剤選定 (ピーマン・小ネギ・ニラ・ナス・イチゴ)	〃		H25～27	〃
5 水耕養液の長期利用技術の確立				
1) みつばにおける循環型養液栽培モデルの検証				
(1) 養液成分の動態調査および養液管理ソフトの改良	土壌・環境チーム	育葉産業	H24～25	県単
2) 循環型モデルの適合性の現地実証				
(1) 養液管理ソフト適合性検討(現地支援)	土壌・環境チーム	中部振興局	H25	県単
(2) 養液交換の簡易判定基準の有効性検証	〃	中部振興局、育葉産業	〃	〃
6 小ネギの冬期増収に向けた栽培技術の改善				
1) 栽培基準の見直し				
(1) 播種量の検討	ネギ・イモ類チーム	土壌・環境チーム	H25～27	県単
(2) 施肥量の検討	〃	〃	〃	〃
(3) 品種の検討	〃	〃	〃	〃
2) 冬期栽培に適した施肥技術の検討				
(1) 施肥方法の検討				
① 基肥と追肥の割合	ネギ・イモ類チーム	土壌・環境チーム	H25～27	県単
(2) 施用する窒素形態の検討	土壌・環境チーム	ネギ・イモ類チーム	H25～27	県単

試験研究課題名 I 大課題 1 中課題 1) 小課題 (1) 試験項目	担当	連携機関	研究期間	予算区分
7 ニラの作型改善のための品質、収量向上技術の確立				
1) 作期の前進化による収量確保				
(1) 定植時期、保温技術の検討	ネギ・イモ類チーム		H25～27	県単
2) 品質低下防止技術				
(1) 遮光資材の利用技術の検討	ネギ・イモ類チーム	中部振興局	H25～27	県単
8 根深ネギの大規模経営体のための周年安定生産技術の確立				
1) 平坦地での秋冬ネギの安定生産技術の確立				
(1) セル大苗利用による秋冬ネギ安定生産技術 現地試験	ネギ・イモ類チーム	北部振興局	H24～26	県単
(2) セル大苗利用による秋冬ネギ安定生産技術 場内試験				
①播種粒数及び育苗日数が生育に及ぼす影響	ネギ・イモ類チーム		H24～26	県単
②品種が生育、収量に及ぼす影響	〃		〃	〃
2) トンネル被覆栽培での5月収穫ネギの追肥・かん水技術の確立				
(1) トンネル被覆開始時期が生育、収量に及ぼす影響	ネギ・イモ類チーム	豊肥振興局	H24～25	県単
(2) かん水が生育、収量、抽だい率に及ぼす影響	〃	〃	〃	〃
(3) 被覆開始前の緩効性肥料の施肥効果の検討 現地試験	〃	〃	〃	〃
9 大分ブランド高品質カンショ「甘太くん」の安定生産技術の確立				
1) 栽培管理技術				
(1) 土壌理化学改良技術の確立	ネギ・イモ類チーム	土壌・環境チーム、中部局、豊肥局、九沖農研センター	H24～26	県単
2) 貯蔵管理技術				
(1) 糖度安定向上技術の確立 ①低温処理	ネギ・イモ類チーム	中部局、豊肥局、九沖農研センター	H24～26	県単
(1) 糖度安定向上技術の確立 ②糖度測定法	〃	中部局、豊肥局、九沖農研センター、(株)クボタ	H24～26	〃
(2) 腐敗果軽減技術	〃	中部振興局、豊肥振興局	〃	〃
(3) 低温遭遇時間	〃	中部振興局、豊肥振興局、大阪事務所	〃	〃

試験研究課題名		担当	連携機関	研究期間	予算区分
I 大課題	1 中課題	1) 小課題	(1) 試験項目		
10	イチゴのうどんこ病とクロバネキノコバエ類の防除対策				
	1) うどんこ病の予防体系の確立				
	(1) 無病苗の選抜法の確立	病害虫チー ム		H24～26	県単
	(2) 育苗期における高温処理によるうどんこ病の防除効果	〃	各振興局	〃	〃
	(3) 有効薬剤の選定	〃		長期	委託
	2) クロバネキノコバエ類の防除対策				
	(1) 発生実態調査	病害虫チー ム	東京大学、各 振興局、イチ ゴチーム	H24～26	県単
	(2) 有機質資材調査	〃		〃	〃
	(3) 有効薬剤の探索	〃		〃	〃
	(4) 防除効果試験	〃		〃	〃
11	病害虫発生予察事業				
	2) 発生予察技術支援対策				
	(1) ウイルス保毒虫、薬剤抵抗性害虫の検定	病害虫チー ム	各振興局	H23～25	県単、一部 国庫
12	農薬残留特殊調査（マイナー作物への登録拡大）	病害虫チー ム	土壌・環境 チーム、中 部振興局、 北部振興局	H25～27	県単、一部 国庫
13	根深ネギに突発的に発生するネダニ類の防除対策				
	1) 発生実態調査				
	(1) 発生種、発生消長調査、ネギの生育に影響するネダニ類密度	病害虫チー ム	各振興局	H24～26	県単、一部 委託
	(2) ネダニ類発生圃場における軟腐病発生実態調査	〃	〃	〃	〃
	3) 防除技術の確立	〃	〃	〃	〃
	③力強い担い手を育成するための技術開発				
14	緑茶飲料茶、「おおい茶グリーン」の収量、品質向上技術の確立				
	1) 新需要に対応した多収安定生産技術の開発				
	(1) 摘採適期予測技術の開発	茶業チー ム		H25～27	県単
	(2) 主要品種の秋冬番茶加工適正の解明	〃		〃	〃
	(3) 有効積算温度と翌一番茶収量に関するデータの蓄積	〃		〃	〃

試験研究課題名	担当	連携機関	研究期間	予算区分
I 大課題 1 中課題 1) 小課題 (1) 試験項目				
2) 「おおい茶」ブランド確立に向けた被覆栽培技術の高度化				
(1) 被覆・摘採適期判断技術	茶業チーム		H25～27	県単
(2) 品種毎の被覆適応性解明	〃		〃	〃
(3) 高品質茶園の要因分析	〃	研究普及課	〃	〃
3) 栄養性適応性試験				
(1) 12群 (2) 13群	茶業チーム	(独)野茶研	H25～27	県単
温室効果ガス排出量の削減と効率的な低コスト施肥技術の確立	〃	飲料茶メーカー	H25	県単
④地球温暖化・環境対策等の技術開発				
15 チャの難防除害虫の効率的な防除技術の確立				
1) 難防除害虫に対する発生予測と防除技術の確立				
(1) チャトゲコナジラムシの発生予測と防除技術の確立				
① 発生消長調査	茶業チーム	東部振興局	H23～25	県単
② 防除薬剤、防除時期の検討	〃	東部振興局	〃	県単、一部委託
(2) クワシロカイガラムシのふ化予測技術の確立				
② 現地茶園温度データ採取	茶業チーム	東部、北部、中部、豊肥局	H23～25	県単
2) 越冬害虫の密度低減技術の確立				
(1) 秋期防除・せん枝によるチャノホソが越冬密度低減技術	茶業チーム	広域普及指導員	H23～25	県単
3) 薬剤感受性低下に対応した防除技術の確立				
(1) チャノキイロアザミウマに対する各種薬剤の検定	茶業チーム	病害虫チーム	H23～25	県単
(2) チャノミドリヒメヨコバイに対する各種薬剤の検定	〃	〃	〃	〃
16 高温基調下での気象変化に対応したトマトの安定出荷技術				
1) 生理障害軽減のための気象状況(予測)を考慮した灌水技術				
(1) 生理障害回避のための要因分析(夏秋地帯)(水管理)	トマト・ピーマンチーム		H23～25	県単
(2) 生理障害回避のための要因分析(夏秋地帯)(赤採りトマト)	〃	豊肥振興局、西部振興局	〃	〃
3) 一段密植栽培における出荷平準化技術の確立				
(1) 高温期の着果安定(品種比較)	トマト・ピーマンチーム		H23～25	県単
(2) 高温期の着果安定(専用組成、二段取り)	〃		〃	〃
(3) 高温期の着果安定(病害対策)	〃	病害虫チーム	〃	〃
トマト促成栽培での適正な飽差管理による二酸化炭素施用効果実証試験	〃		H25	〃

試験研究課題名		担当	連携機関	研究期間	予算区分
I 大課題	1 中課題	1) 小課題	(1) 試験項目		
17-1	西日本一の夏秋ピーマン産地の土台を支える技術の確立				
	1 温暖化に対応した栽培技術の確立				
	1) 高温対策技術の開発				
	(1) 合理的なかん水方法の確立 (摘葉)	トマト・ピーマンチーム		H24~26	県単
	(2) 合理的なかん水方法の確立 (かん水時間)	〃	土壌・環境チーム	〃	〃
	(3) 高温耐性品種の選定	〃		〃	〃
	2) 防虫ネット全面展張方法の改良	〃	病害虫チーム	〃	〃
17-2	西日本一の夏秋ピーマン産地の土台を支える技術の確立				
	2 温暖化等気象変動に対応した夏秋ピーマンの水・肥培管理技術の確立				
	1) 気象変動に対応した水管理技術の検討				
	(1) 生育ステージに応じた適正な水管理条件の検討	土壌・環境チーム	トマト・ピーマンチーム	H24~26	県単
	(2) 各産地における水管理実態調査	〃	トマト・ピーマンチーム、ピーマンPT班	〃	〃
	2) 気象変動に対応した肥培管理技術の検討				
	(1) スターター肥料と緩効性被覆肥料組み合わせの検討	土壌・環境チーム	トマト・ピーマンチーム	H24~26	県単
	(2) 現地実証試験	〃	ピーマンPT班	H24~26	県単
17-3	西日本一の夏秋ピーマン産地の土台を支える技術の確立				
	3 夏秋ピーマンにおいて近年顕在化したタバコガ類と白絹病に対する防除技術の確立				
	1) タバコガ類の防除対策				
	(1) タバコガ類種構成調査	病害虫チーム	トマト・ピーマンチーム、広域普及指導班、中部、豊肥、西部局、JA大分	H24~26	県単、一部国庫
	(2) 越冬実態の解明	〃	広域普及指導班、中部、豊肥、西部局、JA大分	〃	〃
	(3) 有効な薬剤の探索	〃	トマト・ピーマンチーム	〃	〃
	(4) 防除適期の把握				
	①数値に基づいた発生予察手法の確立				
	ア) タバコガ有効積算温度とトラップ誘殺数の関係	病害虫チーム	トマト・ピーマンチーム、広域普及指導班、中部、豊肥、西部局、JA大分	H24~26	県単、一部国庫
	②総合防除対策の確立				

試験研究課題名				担当	連携機関	研究期間	予算区分
I 大課題	1 中課題	1) 小課題	(1) 試験項目				
2) 白絹病の防除対策							
(1) 発生生態の解明				病害虫チーム	土壌・環境チーム、中部振興局	H24～26	県単
(2) 防除技術の確立				〃	中部振興局、日本化薬(株)	〃	〃
18 農地土壌温室効果ガス排出量算定基礎調査事業				土壌・環境チーム	全振興局、家畜衛生飼料室	H25～32	国庫委託
⑤地域資源の活用と省エネルギーの技術開発							
19 製鋼スラグを利用した火山灰土壌(黒ボク土)のリン酸利用効率向上技術の開発							
1) リン酸利用効率の検討				土壌・環境チーム		H25～27	県単
2) 環境負荷への影響の検討				〃		〃	〃
II 研究を支える基礎調査と優良種苗等供給体制の確立							
イチゴのウイルスフリー苗の育成				イチゴチーム	病害虫チーム	長期	県単
カンショの茎頂培養によるウイルスフリー苗とサトイモ優良種苗保存育成				ネギイモ類チーム	イチゴチーム	〃	〃
カンショの品種選定				〃	九州沖縄農業研究センター	〃	〃

4. 研究成果等の公表及び情報発信

(1) 刊行物等の発行

刊行物誌名	刊行年月日	項数	部数
平成24年度農業研究部試験研究成績書	H25. 5月	382	50
大分県農林水産研究指導センター研究報告(農業研究部編) 第4号	H26. 3. 31	46	150
大分県農林水産研究指導センター研究報告第4号	H26. 3. 31	45	250
平成25年度植物防疫事業成績書	H26. 3. 31	71	300

(2) 学会誌、専門誌等への投稿

執筆者	論文名	掲載誌名	巻(号)	掲載項
小野元治、武政彰、和田志乃、岡崎真一郎	ダイズの子実加害性カメシ類に対する主要薬剤の防除効果	九州病害虫研究研究会報	59	105
岡崎 真一郎	近年大分県の夏秋ピーマンで多発生するワタアブラムシに対する各種薬剤の殺虫効果	九州病害虫研究研究会報	59	108
岡本潤、雨川公洋	大分県におけるQoI剤耐性イネいもち病の発生	九州病害虫研究研究会報	59	111
鈴木智範、岡本潤、祖田嘉教、吉松英明	大分県におけるダイズ紫斑病耐性菌の発生実態	九州病害虫研究研究会報	59	111
後藤英世、岡本潤、鈴木智範	イチゴうどんこ病の近年の発消長と夏期高温育苗による防除効果	九州病害虫研究研究会報	59	112
雨川公洋、大坪亮介、山崎修一	果実各部位に対するピーマン軟腐病の感染リスクの検討	九州病害虫研究研究会報	59	114
玉嶋勝範	大分県におけるナシマダラメイガの発生時期	九州病害虫研究研究会報	60	126
上島慧里子、岡崎真一郎、玉嶋勝範	夏秋ピーマンにおけるタバコガ類の発生予察基準策定に向けた取り組み	九州病害虫研究研究会報	59	127
加藤幸太郎、和田志乃、小野元治	大分県におけるイチゴのナミハダニに対する各種薬剤の殺虫効果	九州病害虫研究研究会報	59	128
祖田嘉教、岡崎真一郎、小野元治	根深ネギにおける植物病原菌類に対するネダニ類の選好性	九州病害虫研究研究会報	59	129
上島慧里子、加藤幸太郎、小野元治	大分県のキャベツ産地で採集したコナガに対する各種薬剤の殺虫効果	日本応用動物昆虫学会(講要集)	58	65
岡崎真一郎、米田恵美	本邦におけるスピノサド剤に対して薬剤感受性低下したミカンキイロアザミウマの初確認	日本応用動物昆虫学会(講要集)	58	66
岡崎真一郎他	ワタアブラムシにおけるネオニコチノイド抵抗性メカニズム	日本応用動物昆虫学会(講要集)	58	67
出口奈吾、影井雅夫	かん水量の違いが夏秋ピーマンの収量および土壌水分に与える影響	九州農業研究発表会専門部会発表要旨集	第76回	31
植谷博一、佐野雅俊、和田信一郎	小ネギ栽培土壌における葉先枯れ症の塩基の形態による危険度評価法	九州農業研究発表会専門部会発表要旨集	第76回	32
佐伯知勇、影井雅夫、和田信一郎	製鋼スラグ施用による黒ボク土の土壌化学性と環境負荷への影響 第一報：施用後1年以内の短期的な影響	九州農業研究発表会専門部会発表要旨集	第76回	42
大塚美希、上谷麻梨恵、藤谷信二	夏秋トマトの裂果発生に着目した品種比較	九州農業研究発表会専門部会発表要旨集	第76回	118
上谷麻梨恵、藤谷信二、木村真美	夏秋トマトのかん水方法の違いによる裂果軽減効果	九州農業研究発表会専門部会発表要旨集	第76回	119
姫野和洋、大塚美希	夏秋ピーマンにおけるかん水時間帯が尻腐れ果の発生に及ぼす影響(第1報)	九州農業研究発表会専門部会発表要旨集	第76回	122
中尾浩明、安部貞昭、山崎真居	イチゴの2本苗を活用した省力・低コスト育苗	九州農業研究発表会専門部会発表要旨集	第76回	130
加藤昌美、佐藤如、安部貞昭	大分方式Y型イチゴ高設ベンチを用いた灌水施肥栽培における排水および土壌溶液の硝酸イオン濃度およびEC	九州農業研究発表会専門部会発表要旨集	第76回	133
安部貞昭、山崎真居	イチゴ‘さがほのか’におけるかん水量とホウ素水溶液の施用が先しぼり果発生に及ぼす影響	九州農業研究発表会専門部会発表要旨集	第76回	134
山崎真居、安部貞昭、中尾浩明	イチゴの長期間の夜冷短日処理における採苗時期が開花時期と収量に及ぼす影響	九州農業研究発表会専門部会発表要旨集	第76回	137
佐藤如、山崎真居、加藤昌美	イチゴの果実肥大、果実の大きさの揃い、果実糖度の評価について	九州農業研究発表会専門部会発表要旨集	第76回	141
上谷麻梨恵	「午前11時かん水」で裂果軽減	農業新聞	[夏秋取り] トマト特集号	7面

(3) 研究会、学会等での発表

発表年月日	研究会、学会等の名称	発表者	発表課題名
H25. 7. 11	第18回農林害虫防除研究会奈良大会	上島慧里子・山下大輔・姫野和洋・大坪亮介・岡崎真一郎	夏秋ピーマン栽培におけるタバコガ類を対象とした防虫ネットの普及実態
H25.9.4	九州・沖縄マッチングフォーラム (ポスター展示)	大仲真喜子	「べにはるか」の特性を活かした新たなブランド産品づくり
H25.9.4	九州・沖縄マッチングフォーラム (ポスター展示)	濱田翔子	ニラの鮮度保持技術
H25. 9. 5	九州農業研究発表会	安部貞昭	イチゴ‘さがほのか’におけるかん水量とホウ素水溶液の施用が先しぼり果発生に及ぼす影響
H25. 9. 5	九州農業研究発表会	中尾浩明	イチゴの2本苗を活用した省力・低コスト育苗
H25. 9. 5	九州農業研究発表会	山崎真居	イチゴの長期間の夜冷短日処理における採苗時期が開花時期と収量に及ぼす影響
H25. 9. 5	九州農業研究発表会	加藤昌美	大分方式Y型イチゴ高設ベンチを用いた灌水施肥栽培における排液および土壌溶液の硝酸イオン濃度およびEC
H25. 9. 11	園芸学会九州支部	上谷麻梨恵	夏秋トマトの簡易果房遮光及びUVカットフィルムによる裂果軽減効果
H25. 9. 11	園芸学会九州支部	大塚美希	夏秋トマトの裂果発生に着目した品種比較
H25. 9. 11	園芸学会九州支部	姫野和洋	夏秋ピーマンにおけるかん水時間帯が尻腐れ果の発生に及ぼす影響(第1報)
H25. 10. 2	平成25年度日本土壌肥料学会九州支部秋季例会 (九農研土壌肥料部会)	出口奈吾、影井雅夫	かん水量の違いが夏秋ピーマンの収量および土壌水分に与える影響
H25. 10. 2	平成25年度日本土壌肥料学会九州支部秋季例会 (九農研土壌肥料部会)	埴谷博一、佐野雅俊、和田信一郎	小ネギ栽培土壌における葉先枯れ症の塩基の形態による危険度評価法
H25. 10. 3	平成25年度日本土壌肥料学会九州支部秋季例会 (九農研土壌肥料部会)	佐伯知勇、影井雅夫、和田信一郎	製鋼スラグ施用による黒ボク土の土壌化学性と環境負荷への影響 (第一報)
H25. 11. 13	第86回九州病虫害研究会	祖田嘉教・小野元治	根深ネギで発生する軟腐病および白絹病のネダニ類2種に対する誘引性の比較
H25. 11. 13	第86回九州病虫害研究会	岡崎真一郎・米田恵美	大分県の夏秋ピーマンで採集したミカンキイロアザミウマの各種薬剤に対する殺虫効果

発表年月日	研究会、学会等の名称	発表者	発表課題名
H26. 1. 29	平成25年度九州沖縄農業試験研究推進会議 野菜・花き推進部会	衛本圭史	平坦地での根深ネギ、秋冬作型の安定生産技術の確立 1)セル苗の播種粒数および育苗日数が生育収量に及ぼす影響
H26. 2. 6	第87回九州病害虫研究会	加藤幸太郎・能見伊久絵	施設イチゴにおけるクロバネキノコバエ類の発生生態および本種幼虫の各種薬剤に対する殺虫効果
H26. 3. 28	第58回日本応用動物昆虫学会大会	上島慧里子・加藤幸太郎・小野元治	大分県のキャベツ産地で採集したコナガに対する各種薬剤の殺虫効果
H26. 3. 28	第58回日本応用動物昆虫学会大会	岡崎真一郎・米田恵美	本邦におけるスピノサド剤に対して感受性低下したミカンキイロアザミウマの初確認

(4) 研究成果発表会

発表会の名称	開催年月日	開催場所	発表課題数	参加者数
研究状況報告会	H25. 10. 30	大分市（県庁）	1	50
土壌肥料・病害虫研究会	H26. 2. 18	花きグループ	1	62

5. 研究成果の普及、技術指導

(1) 講習会、研修会の開催

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考（共催、要請機関等）
H25. 4. 4	茶移植機による定植作業実演会	臼杵市	23	
H25. 4. 17	専門技術研修（基礎）	農業研究部	14	研究普及課
H25. 4. 23	大分県茶業協会製茶加工研修	杵築市	13	大分県茶業協会
H25. 5. 15	防虫ネット設置研修	臼杵市野津町	20	ピーマンプロ班、JA
H25. 5. 29	佐伯部会イチゴ環境制御講習会	JA佐伯木立選果場	15	南部振興局
H25. 5. 30	佐伯部会イチゴ環境制御講習会	蒲江町公民館	10	南部振興局
H25. 6. 5	専門能力強化研修（土壌肥料基礎）	豊後大野市	16	研究普及課
H25. 6. 7	ピーマン連絡協議会研修会	臼杵市野津町	150	大分県農協野津事業部
H25. 6. 7	ピーマン出荷目揃え会、防虫ネット設置研修	臼杵市野津町	50	大分県夏秋ピーマン連絡協議会
H25. 6. 12	水耕ネギ研修会	大分市	20	
H25. 6. 12	耶馬溪一番茶査定	中津市耶馬溪町	20	耶馬溪製茶
H25. 6. 13	杵築市イチゴ部会環境制御講習会	JA杵築事業部	30	東部振興局
H25. 6. 20	園芸技術者協議会環境制御研修会	農業文化公園	50	園芸技術者協議会
H25. 6. 25	サニープレイスファーム支援会議	佐伯市	15	南部振興局

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考（共催、要請機関等）
H25. 7. 17	第45回大分県茶品評会審査会	農業研究部	12	大分県茶業協会
H25. 7. 31	園芸技術者協議会いちご研修会	農業大学校	24	園芸技術者協議会
H25. 8. 2	紅茶研修会	日田市中津江	10	
H25. 8. 9	平成25年度手揉み茶研修会・一番茶作柄検討会	農業研究部	16	大分県茶業青年会
H25. 8. 26	いちご栽培技術研修会	全農おおい	93	園芸振興室、園芸振興班
H25. 9. 3	大分なら広域共販技術者協議会役員会	JA東陽	10	中部振興局
H25. 9. 12	なら生産者研修会	JAおおいカントリーエレベーター	30	中部振興局
H25. 9. 25	ピーマン園芸技術者協議会研修会	農林水産研究指導センター	25	園芸技術者協議会
H25. 10. 10	久住・阿蘇地域に分布する非アロフェン質黒ボク土の特徴と土壌管理セミナー	畜産研究部 畜産研修センター	38	(独)九州沖縄農業研究センター、畜産研究部
H25. 10. 16	大分県茶業協会茶園管理研修会	杵築市山香町	45	大分県茶業協会
H25. 10. 30	研究状況報告会	大分市（県庁）	50	センター本部
H25. 10. 31	トマト園芸技術者協議会研修会	農林水産研究指導センター	20	園芸技術者協議会
H25. 11. 7	なら生産者研修会	JA野津	17	中部振興局
H25. 11. 8	大分なら広域共販技術者協議会役員会	JAおおいカントリーエレベーター	7	中部振興局
H25. 11. 12	普及指導員課題解決研修（普通作第2回）	大分市	40	集落水田対策室
H25. 12. 4	ピーマンプロ班班域調査研修会	玖珠町	6	ピーマンプロ班
H25. 12. 4	JAみどりトマト部会荻支部反省会	道の駅すごう	50	JA荻トマト部会
H25. 12. 18	施肥・防除対策研修会	大分市	150	おおいブランド推進課
H25. 12. 18	施肥防除対策研修会	大分市	117	大分県肥料植物防疫協会
H25. 12. 19	園芸技術者協議会 白ネギ研修会	農業研究部	7	園芸技術者協議会
H26. 1. 21	畑作物抵抗性病害虫の防除に関する検討会	名古屋市	250	近畿農政局、北陸農政局、東海農政局
H26. 1. 31	北部地域白ネギ研修会	豊後高田市	50	
H26. 2. 3	農業指導士認定研修	大分県教育会館	120	おおいブランド推進課
H26. 2. 3	トマト園芸技術者協議会研修会	JA臼杵事業部	30	園芸技術者協議会
H26. 2. 4	ピーマン園芸技術者協議会研修会	農林水産研究指導センター	30	園芸技術者協議会
H26. 2. 5	平成25年品質管理研修会	農業研究部	41	県内ドリンク茶法人
H26. 2. 7	園芸技術者協議会 小ネギ研修会	農業研究部	6	園芸技術者協議会
H26. 2. 14	ウイルス媒介性昆虫の総合防除	兵庫県宝塚市	100	住友化学(株) 健康・農業関連事業研究所
H26. 2. 14	平成25年度九州・沖縄地区植物防疫関係者研修会	鹿児島市	50	九州沖縄地区病害虫防除所職員連絡協議会、九州農政局
H26. 2. 18	カーブレイスファーム支援会議	佐伯市	15	南部振興局
H26. 2. 24	茶園難防除害虫対策研修会	杵築市山香町	40	県内生産者
H26. 2. 25	平成25年度大分県園芸技術者協議会全員研修会	大分県教育会館	60	園芸技術者協議会
H26. 2. 26	園芸技術者協議会 ニラ研修会	JA佐伯	13	園芸技術者協議会

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考（共催、要請機関等）
H26. 3. 11	高糖度かんしょ推進協議会	農業研究部	14	園芸振興室
H26. 3. 11	養液管理ソフト「ベストブレンド」操作研修会	農林水産研究指導センター	6	農業研究部
H26. 3. 20	ピーマン水管理研修会	玖珠町	6	西部普及員、JA、生産者
H26. 3. 24	白ネギ病害虫講習会	豊後高田市	50	

（２）受入研修

①長期研修者受入

氏名	所属	研修内容	期間
江藤太一	農業大学校	イチゴのハウス内環境制御	H25. 4. 1～H25. 5. 31
梅本雄太	農業大学校	イチゴのハウス内環境制御	H25. 9. 1～H26. 3. 31
伊東拓真	農業大学校	側枝を利用したトマトの低段密植栽培の検討	H25. 9. 1～H26. 11. 30
神代朋子	農業大学校	トマトの低段密植栽培における二段採り栽培の検討	H25. 11～H26. 10
坪島将太	農業大学校	ピーマンの尻腐れ果低減技術の検討	H25. 1～H25. 11
田原達統	農業大学校	根深ネギ(5月どり作型)の栽培技術の検討	H25. 9. 1～H26. 11. 30
平木誼之	農業大学校	茶の基本的な知識・作業の習得	H25. 10. 10～H26. 2. 13

②生産者、団体職員、改良普及指導員等短期受入研修及び視察対応

対象者	件数	受入人数
生産者	18	214
団体等職員	18	27
普及指導員	47	108
学生	1	1（5日間）
海外研修者	0	0
その他	18	23
水田農業グループ	1	1（2日間）
果樹グループ	1	1（2日間）

（３）指導・研修プロジェクトの実証 なし

6. 受賞及び学位の取得等

学位取得

職名	氏名	取得年月日	取得大学	学位	学位論文テーマ
主任研究員	岡崎 真一郎	平成25年9月24日	九州大学	博士（農学）	ピーマンを加害する トマト黄化えそウイ ルス（TSWV）媒 介者ミカンキイロア ザミウマの総合的防 除に関する研究